

会津若松消防署 予防係の方々から避難訓練コンサートの最後に講評をいただきました。

表題：「『いざという時のために！』～でも防災が一番 ～防火・防災の心得～」

冒頭部分では、今回の避難訓練コンサートについてご指摘をいただきました。

- ①係員の避難誘導の声が小さかった。
 - ②大規模な避難訓練コンサートも行ってみるべきである。
 - ③避難経路がふさがっていたりという突発的な任意設定を取り入れるべきである。
- との、貴重なご指摘をいただきました。

★よりお客様にわくわくして頂ける催しの企画のための糧にして参ります。

とある避難訓練後にアンケートを実施したところ、

●劇場等で災害が発生した場合に訓練同様の対応が取れるか？

→大丈夫（11%）

→できない・わからない（89%）

★このように、9割近くの方が災害が発生した場合の対応方法に不安を抱いている結果が得られました。

●劇場等で地震があった場合最も不安に思うことを問うたところ、

1. 係員の避難誘導方法
2. 停電による暗闇状態
3. 天井からの落下物
4. 大人数の混乱状態

とのことでした。特に係員の避難誘導方法については、マニュアルも重要だが、災害の様態・規模に応じた防災知識に裏付けられた柔軟な避難誘導方法が重要であるとのことでした。

●大規模災害対応の原則～自助・共助・公助～

- ・自助：自分の命は自分で守ること
- ・共助：近隣が助け合い命を守ること
- ・公助：消防等による応急・復旧対策活動のこと

→大規模災害であればあるほど、自治体や消防等といった公の機関がなんとかしてくれるだろうと思っ
てしまいがちですが、公助にも限界があります。まずは、自分の命は自分で守り、近隣の方々と協力を
しながら、それでも対応が難しい場合には公の機関の力を借りるという姿勢が大事であるとの事でした。

●個々の防災力強化

- ・防災知識の習得
- ・家庭内での話し合い

→避難訓練等、自分が経験したことを家庭内など集団で共有することにより、今まで自分が持ち得な
かった防災知識などを習得する良い契機となるので、ぜひ積極的に話し合ってもらいたいとのことでした。